

心豊かな「すてきさん」づくり ～ えがお・げんき・あいさつ～
かんがえ、やってみる子 いたわり、助け合う子 せいっぱいがんばる子 いきいきと元気な子

茶色のコートをもたう
どんぐり会館のクヌギ



開成町立開成幼稚園

たいよう通信

第8号

発行日：令和6年12月27日（金）

発行者：園長 杉山 孝史

今年もお世話になりました

12月中旬頃から、真冬並みの寒い日が続いています。先週、町内の学校では、インフルエンザや風邪などで欠席する子どもたちが増えたため、学級閉鎖が実施されました。幼稚園にも影響が出るのではないかとハラハラしましたが、無事冬休みを迎えることができました。



さて、2学期最終日の12月24日（火）、終業式を実施しました。はじめに行った年少の終業式では、学年の先生による手作り楽器の演奏に合わせて子どもたちが「おもちゃのチャチャチャ」を伸び伸びと歌いました。

（写真上）次に行った年中と年長の終業式では、各学級の代表の子が2学期を振り返って、楽しかった思い出や出来るようになったことを発表しました。

マリーゴールドでひまわりのTシャツを染めたこと、紙飛行機を折って友達と一緒に飛ばしたこと、もりフェスでみんなと力を合わせたこと、縄跳びでたくさん跳べるようになったこと、弥一芋を育てて給食で食べたことなど、写真や実技を交えて紹介しました。発表した子に仲間から温かな拍手が送られました。（写真下）一方、私からは、足柄山のタヌキのボン吉から届いた交通事故の防止を呼びかける手紙を子どもたちに紹介した後、**交通事故・誘拐・お金・火**の4つの事故「こう・ゆう・きん・か」に気をつけるよう伝えました。全ての学年の子どもたちが終業式にしっかりと参加できました。みんな「すてきさん」です。

2学期も、保護者や地域の皆さまに幼稚園をいろいろな場面で支えていただきました。本当にありがとうございました。3学期も、教育目標の達成を目指して、職員の気持ちを一つにして保育に全力で取り組んでまいります。引き続き、皆さまのご支援とご協力をお願いいたします。皆さま、よいお年をお迎えください。



観劇「ソノヒカギリ美術館」

12月3日（火）、PTA主催の文化教養講座が開成町福祉会館で開かれました。今回は、日本全国をはじめ海外でも公演活動を行っている劇団・風の子さんによる演劇鑑賞でした。タイトルは「ソノヒカギリ美術館」、美術館の学芸員であるソノキニナルさんとソノバシノギさん、そして迷い込んできたアキの3人が、客席を巻き込みながらユーモラスで不思議な世界を演じました。



劇を観た子どもたちからは、「音楽に合わせて手拍子をしたところが楽しかった」「大きな額でいろいろなポーズになったところが面白かった」といった感想が聞かれました。また、「参加型で子どもだけでなく大人も楽しめてよかった」「子どもにとってホンモノに触れる体験はとても大事だと感じた」など、保護者の方にも大変好評でした。

観劇は、子どもたちの想像力や表現力などの育成にとっても効果があると言われています。今回、このような有意義な場を用意してくださったPTA役員の皆さま、ありがとうございました。

観劇は、子どもたちの想像力や表現力などの育成にとっても効果があると言われています。今回、このような有意義な場を用意してくださったPTA役員の皆さま、ありがとうございました。

弥一芋食べてください

年長・さくら組の子どもたちが12月13日（金）、園の畑で収穫した弥一芋を開成町の山神町長さんに届けました。庁舎1階の入口で、町長さんが笑顔で出迎えてくださいました。



2階の部屋に案内され、代表の子が弥一芋の入った箱を町長さんにそっと手渡しました。子どもたちの発案で、その箱はクリスマス風に色づけされていました。「弥一芋を届けに来ました。味わって食べてください。」と、子どもたちが伝えると「ありがとうございます。食べ物を育てる大変さを忘れず、皆さんも感謝の気持ちで食べてください。」と、町長さんが子どもたちにメッセージをくださいました。

この日のことは、子どもたちにとって忘れることのできない貴重な体験になりました。子どもたちに温かく接してくださった町長さん、町役場の皆さまありがとうございました。



12月16日(月)から4日間、子どもたちが遊の中で作った作品を園舎内に展示しました。開成幼稚園の子どもたちは、絵を描いたり物を作ったりする活動が大好きです。展示作品を通して、幼稚園の生活をおもしろく楽しむ子どもたちの姿を垣間見ていただけたのではないのでしょうか。また、この期間に実施した保護者面談にお忙しい中ご参加いただきありがとうございました。



☆ひだまり

豊かな人間関係



▼2022年のサッカーワールドカップは、中東の国・カタールで開催されました。この大会で日本チームは数々の強豪国に勝利し、見事ベスト16位に入るといって快挙を成し遂げました。連日、日本のサポーターは日本選手のプレーにスタンドから熱いエールを送り続けました。この大会での各国選手の活躍もさることながら、試合後に日本人サポーターの行った行動が、世界の注目を集めました。自分たちの応援席のゴミを自主的に拾い、次に試合を行う国のサポーターのためにきれいに清掃したのでした。この振る舞いは、海外のメディアや他国のサポーターから高く評価され賞賛を受けました。▼日本航空の元客室乗務員として長年勤務し、現在グローバル・マナー・スプリングス代表を務める江上いずみさんは、おもてなしについて次のように話されました。おもてなしは大切な人をお迎えする時の気持ちであり、その人に喜んでもらうために精一杯心を尽くすことです。サービスとは異なり一切の見返りを求めません。また、おもてなしは「表なし、裏なし」という意味もあり、表面的なものでなく本心から心を尽くすことです。さらに江上さんは、国際的に通用するマナーについても話されました。握手は年長者や上司が先に手を差し出すもの、部屋に入る時は3回ノック、2回はトイレに入る時など、中に人がいるか確かめる場合に行うのだそうです。

▼江戸時代の日本で発展した礼儀やマナーの一つに江戸しぐさがあります。例えば、雨の日に傘をさして歩く際、すれ違う人に傘が当たらないように傾ける「傘かしげ」、自分が悪くなくても、相手に不快な思いをさせたら直ぐに謝る「うかつあやまり」などです。これらの行動は、江戸の町で人々が互いに尊重し合い、気持ちよく暮らすための文化として深く根付いていました。▼もうすぐお正月です。職場や学校で新年のあいさつを交わしたり、親戚や友人とおせち料理をいただいたり、家族で初詣に出かけたりすることもあると思います。お正月という伝統行事を通して、習慣やマナーを学び実践することで、より豊かな人間関係を築くことができるのではないのでしょうか。